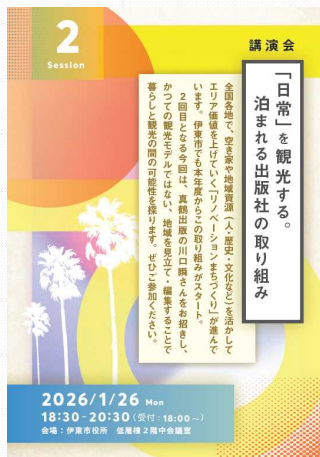


Topics

伊東市でリノベーションまちづくりの講演会開催
講師が「新しい観光」の形を作った経験語る

地域住民向けのリノベーションまちづくり講演会を伊東市で開催し、市民らおよそ80人が参加しました。



講演会では、神奈川県・真鶴町で出版業と宿を営む川口瞬氏が『『日常』を観光する。泊まれる出版社の取り組み』をテーマに登壇しました。

川口氏は真鶴町について「バブルの頃に流行った観光地で、右肩下がりに衰退していた」とした上で、町に残った「日常・生活風景」を守る条例を基に、「ハレの日の観光ではなく、ケの日の観光、『日常を観光すること』を目指した」と説明。

宿に泊まったゲストに対し、まちあるきを通して地域の人たちと触れ合う機会を作ったり、真鶴ならではの日常風景を見せたりしていることなど、観光スポットを勧めるこれまでの宿泊業と違う点に触れました。

また、出版社として、観光冊子を作る際に、真鶴の日常風景を良さとしてまとめ、『町の“良いところ”への共通認識』を持たせたことや、8月に行われる地域の祭りを起点にしたカレンダーの制作など、地元住民が地元を好きになる仕掛けも併せて実施したと説明。

地域内外で話題が広がった結果、JR東日本が「真鶴検定」と銘打ち、まちを歩いてクイズを解くイベントを開き、1100人ほどが参加したと説明。また、宿泊者などとして関わった29組73人がまちの良さに惹かれて移住してきたと、まちづくりの成果を紹介しました。

最後に川口氏はこれからの観光について「観光により、地域が豊かになっていくことが目標。地域を消費させない、暮らす人が不利益を被らない観光が大事だ」とした上で、集まった人たちに対し「自分たちの暮らしを面白くしたいから続けている。自分がしたいことをして、結果的にまちが良くなったらいという感覚」とまちづくりの心構えを伝えました。